

1. 検討の方向性（新大阪駅エリアのまちの将来像）

まちづくり方針で示した大きな内容を踏まえ、**新大阪駅エリアがめざすべきまちの将来像をわかりやすく、かつ具体的に示す**ことにより、**官民での共有**を図り、民間開発の誘導につなげる。

まちづくり方針2022

めざすべき大きな方向性

導入すべき都市機能

民間開発に期待する機能

など

R5~7年度 **わかりやすく かつ 具体化**

〈検討項目〉

- (1) まちのコンセプト
- (2) まちのキャッチフレーズ
- (3) 新大阪駅エリアにおいて導入すべき機能

- ① 交流促進機能 ② 交通結節機能 ③ 都市空間機能

官民での共有を図り、
民間開発の誘導に
つなげる

R5 R6 R7
駅位置確定を踏まえた検討の深度化

新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会で議論

※部会で議論した資料は、プロモーションにも活用

まちづくり方針の更新

○導入すべき都市機能の具体的な考え方

交流促進機能

国内外から多様な人と情報が集まり、新しい価値を生み出す。



- (ビジネス・産業)
○人材、アイデア、モノの集積
○人と人の関係性の構築
(観光・文化・エンターテインメント)
○関西・西日本の魅力の体感
○ツーリストの快適な滞在
○ナイトアクティビティ など

例：大規模交流施設、グローバル企業・スタートアップ、サードプレイス、文化・芸術施設、食文化などの体験施設など

交通結節機能

日本・世界と関西をつなぎ、広域の人の流れを集めて、まちへつなげる。



- (新大阪駅)
○多様な交通モードの拡充
○人に寄り添ったサービス
(新大阪・十三・淡路)
○回遊性・リダンダンシー
○災害への対応 など

例：乗換とまちへの人の動線、利用者へのサービス施設、高速バス拠点、新技術の実証、ユニバーサルデザイン

都市空間機能

シンボル性と、懐かしさをもつ、光・緑・水などによる居心地の良い空間形成。



- (新大阪駅)
○駅からまちへの演出
○多様な空間
○新しいシンボル
(十三・淡路)
○水辺、なつかしさ など

例：賑わいや、憩いなど、ホッとするハッと空間づくり、まちと一体的な水辺の活用

新大阪駅エリアの民間都市開発の誘導方策検討会での検討内容

2. 新大阪駅エリアのまちの将来像

(1) まちのコンセプト

まちづくり方針2022

キーワードを抽出

広域の人の流れをまちに広げる

世界有数の広域交通ターミナル

駅とまちが一体

駅と広場とまちが一体

広場を介してまちへ広がる

主な意見

- ✓ 「**駅と広場が中心**となって、エリア内の核となり、**広域からの人の流れがまちに広がっていく**」
そのような広域交通拠点というのが元々の大きなコンセプト。
- ✓ **駅とまちが溶け合っていく**、駅とまちの境界がなくなるようなイメージになれば面白い。
- ✓ 6つのエリアや用途、スケールなど、**様々な時間軸の中で混ざり合いながら、変化していくまちの面白さ**を品川等とは異なる価値として表現できるとよい。
- ✓ コンセプトは特徴をそれぞれ箇条書きにしてもよい。

(2) まちのキャッチフレーズ

新大阪をPRできる効果的なキャッチフレーズを検討

主な意見

- ✓ 福岡の「**天神ビックバン**」は**大規模に変わるんだ**というイメージが伝わる。新大阪も「**動き出す**」「**交流する**」「**生まれ変わる**」と言った、**動きや変化**がわかるものがよい。
- ✓ 多数の人が来て交流することを一言で表すと**加速感**。
- ✓ **西 (West)**ではなく、**日本の中心 (Central)** と言ってはどうか。
- ✓ **外国の方には「新」の意味が伝わらないので、海外向けには「新大阪」ではないまちの呼び名も考えてはどうか。**
- ✓ **決め方**は、検討会だけではなく、**公募や複数案から一般投票**とする方法もある。

▶ 今後の検討方針

- (1) まちのコンセプト ⇒ 本検討会で、R5年度中にコンセプト(案)を検討し、R6年度中に決定
- (2) まちのキャッチフレーズ ⇒ 関係者間(プロモーション検討会等)で連携して検討を進め、R5年度中に選定方法を決定し、R6年度中にキャッチフレーズを決定

2. 新大阪駅エリアのまちの将来像

(3) 新大阪駅エリアにおいて導入すべき機能

① 交流促進機能

交流促進機能

国内外から多様な人と情報が集まり、新しい価値を生み出す。



【まちづくり方針2022抜粋】

新大阪駅エリアの民間都市開発において特に期待される**大規模交流施設と連携する周辺機能(=コアとなる機能)**について、導入の考え方及び具体化を検討

■ 交流促進機能のコア機能の導入の考え方(案)

国内外から多様な人や情報が集まる拠点となるために、**大規模交流施設(MICE)**を核とし、**周辺にその効果を高める「ビジネス・産業」「観光・文化・エンターテインメント」機能を配置し、エリア全体で相互連携する。**

ビジネス・産業機能

タイムパフォーマンスを重視するようなグローバルに活躍する企業の立地

- 国内外から企業・人をひきつけるビジネス環境の整備
- グローバル人材が働きやすい・暮らしやすい環境整備

観光・文化・エンタメ機能

新大阪が目的地として楽しめる環境の整備、西日本各地とをつなぐ観光ハブ機能

- 来訪・滞在のきっかけとなる目玉施設・コンテンツ
- ツーリストと目的地をつなぐ魅力的な観光ハブ機能
- 24時間おもてなし都市を実現する環境

主な意見

【大規模交流施設】

- ✓ 種類として想定されるのは、**ビジネスミーティングや国際会議。**
- ✓ 国際空港から都市に行くターミナルにMICE拠点があるのが世界標準、新大阪周辺はよい位置。交通拠点になる特徴を考えると**展示機能**も想定される。

【周辺機能】

- ✓ **スポーツチームのホームや地域に根差した音楽の拠点など、定期的に開催されるエンターテインメント**があるとよい。
- ✓ ニーズに応じた**滞在機能のバリエーション(期間やグレード)**が必要。

今後の検討方針

将来の新大阪駅エリアに必要となる大規模交流施設の種類や規模、また周辺機能を検討し、まちづくり方針の更新時に反映

新大阪駅エリアの民間都市開発の誘導方策検討会での検討内容

2. 新大阪駅エリアのまちの将来像

(3) 新大阪駅エリアにおいて導入すべき機能

② 交通結節機能



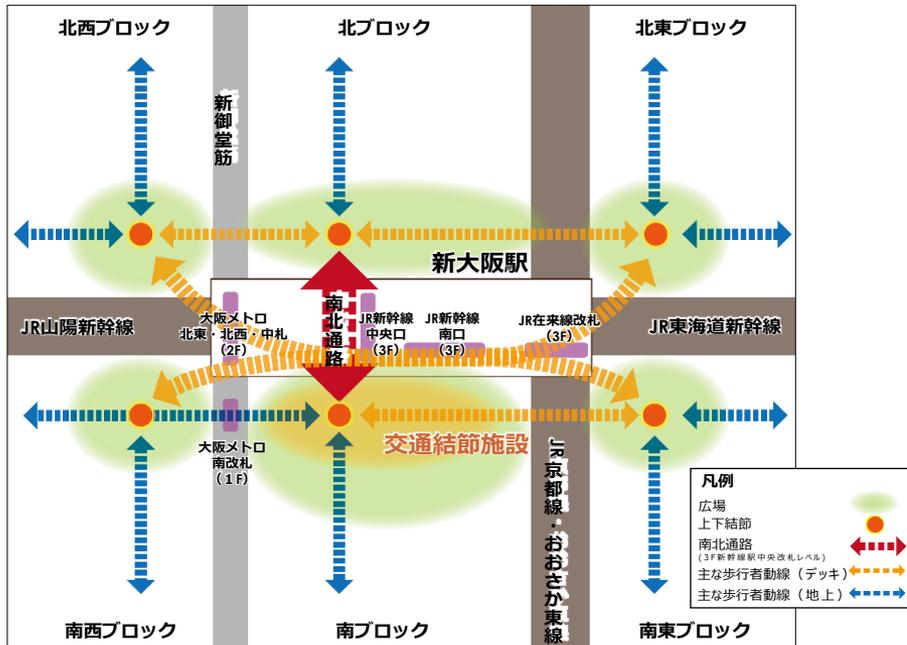
【まちづくり方針2022抜粋】

交通結節機能（鉄道・バス・タクシー等の乗換、バスターミナル、駐車場、次世代交通への対応など）のうち、民間都市開発における、**歩行者ネットワークの形成**や**人の空間づくり（広場等）の考え方**を検討

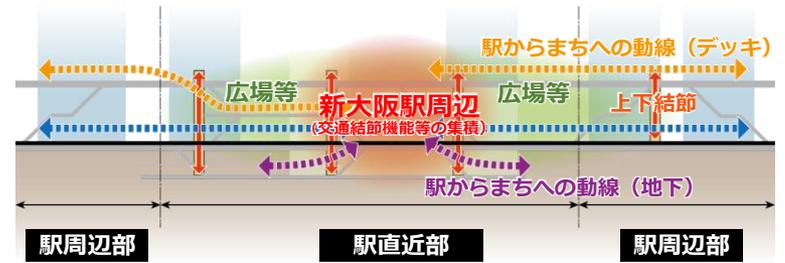
■ 歩行者ネットワーク形成の考え方（案）

駅とまちをつなぐ、わかりやすく、安心感のある人の通行空間の確保に向けて、**新たに整備される鉄道駅や広域交通結節施設との人の動線を確保**するとともに、**広場空間を介して駅からまちに人を流すデッキ～地上～地下レベルのシームレスな空間づくり**を行う。

■ 駅からまちへの歩行者ネットワーク形成のイメージ（案）



■ 歩行者ネットワーク形成のイメージ（案）〈断面〉



主な意見

- ✓ 歩行者ネットワークの形成の**イメージを示すことは重要**。
- ✓ 駅から6ブロックに向かってどのように**視認性**をとるかが重要。
- ✓ 駅からだけでなく**ブロック間の移動のしやすさ**も重要。
- ✓ どこから地上に下ろしていくのか、**垂直動線**がポイント。

▶ 今後の検討方針

新幹線新駅関連プロジェクトの進捗に合わせて、歩行者ネットワーク形成のイメージを更新し、段階的に発信

2. 新大阪駅エリアのまちの将来像

(3) 新大阪駅エリアにおいて導入すべき機能

③ 都市空間機能

都市空間機能

シンボル性と、懐かしさをもつ、光・緑・水などによる居心地の良い空間形成。



【まちづくり方針2022抜粋】

新大阪駅エリアにおいてめざすべき空間形成の考え方や将来イメージを新幹線導入空間等や大規模な民間開発に合わせて整備される空間を対象に検討

■ 空間形成の考え方（案）

多様な人々を駅からまちにひろげていくために、駅と広場が一体となる新しいシンボリックな空間を形成するとともに、賑わい施設や光・みどり・水などを、駅前や駅周辺の屋内外に効果的・連続的に取り入れることで、大阪を印象づける居心地のよい空間を面的に形成する。

■ 新大阪駅エリアの空間形成のイメージ

居心地のよい空間

➤ 低層部の賑わい施設の配置



➤ 光の創出



➤ 緑の演出



➤ 水の演出



シンボリックな空間

➤ 強いインパクトを与える空間



主な意見

- ✓ 新大阪の新しいイメージを打ち出していけるようなものがあるとよい。
- ✓ 駅からまちへ誘導するには、目的地だけではなく、わかりやすい空間や演出が必要。

今後の検討方針

シンボリックな空間や居心地のよい空間の具体検討を進め、R6年度中に将来イメージを作成のうえ、プロモーションに活用